

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	大分県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	大分県大野郡犬飼町立犬飼小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	1	7	
児童数	27	28	32	29	34	23	1	174	13

研究の概要

1. 研究主題

一人ひとりに確かな学力を育むわかる授業の創造
算数科における個に応じた指導を通して

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

1～6学年・算数科

- ・全学年の算数・国語科および4～6年理科において、複数教員の指導体制をとった。
- ・標準学力検査分析（4月）の結果では、Cが算数15%、国語9%で、算数は国語に比べ基礎基本の定着の指導を要する児童が6%多かった。
- ・算数科の学力実態としては、学級内の個々の学力差が大きく、また、学年間でも到達度に大きな差が生じていた。
- ・算数科は系統的に積み上げていく特性があり、一人ひとりのつまずきを見つけやすく小さな克服から自信を持たせやすい教科なので、校内教職員の研究教科として取り組むことにした。

(2) 年次ごとの計画

	<p>テーマ 一人ひとりに確かな学力を育むわかる授業の創造 算数科における個に応じた指導を通して</p> <p>研究の見通し 「あの方法なら できる」と意欲がわき、見通しをもって学習に取り組める発問・場・教材・教具などを考える。 一人ひとりが自分のとき方や考え方を説明できるように図・絵や具体物を用いた操作活動などを入れる。 学んだことがわかり、学習のふりかえりができるノート指導をおこなう。 3つのことを重点的に繰り返し、指導を積み上げていけば、一人ひとりが生き生きと取り組む活動が創造でき確かな学力がついていくであろう。</p>
--	--

平成15年度	<p>研究の内容・方法</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">解決の意欲をうながす発問・場・教材・教具の工夫</p> <p>ア 発問 学習意欲を喚起させる発問と課題解決にせまる発問を児童の意識の流れを尊重しながら決める。 【実践 1年 くり上がりのたしざん】 電子ホワイトボードで馬を実際に動かした後、本時の答えを求める「$9 + 3$はいくつかな」と、課題に迫る「一目で12とわかるのはどれかな」の発問を行った。この2つの発問の間に「一目で12とわかる答えの見つけ方をあとで発表してもらいます」のように条件を示すことを行っていれば操作活動に目的意識ができ、課題解決が短時間でできたのではないか。</p> <p>イ 場 学習課題をしっかりとらえている児童と課題のイメージがとらえづらく具体物を操作しながら思考を深めたい児童に対して2つ以上の場を用意し、それぞれに合った方法で課題解決をする。 【実践 4年 わり算】 「実際に紅白玉を動かす」「絵や図で考える」など児童の興味・関心に基づいた4つの場を設定して学習を組んだ。教室と廊下に場所を広げ自由に選ぶことにより意欲的に課題に取り組めた。</p> <p>ウ 教材・教具 学習意欲を喚起させ、しかも算数の「ひみつ」や「決め手」になる数理の発見に直結する教材・教具を工夫する。 【実践 2年 九九の導入】 カラーボールの入ったペットボトルボーリングを2個・3個・4個の3レーン用意した。カラーボールの示す「基準量」とペットボトルの表す「いくつ分」がゲームを通してわかりやすく、類似した他の問題でもカラーボールの数とペットボトルの本数に置き換えて理解することができた。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">一人ひとりが自分の解き方や考えを説明できる図や絵並びに操作活動の導入</p> <p>本校は、昨年度より表現する力の育成を図ってきた。「わかる」とは、「自分のことばで相手に説明できること」という共通理解のもと、児童の話す力の向上をめざし、話し方の基本を各教室に掲示し、聞く・話す力の基礎の育成に取り組んできた。児童が意欲的に表現（話す）するために、操作活動を導入したり、予想した図や絵などの道具を利用させるなど、児童の説明を支援する環境づくりを心掛けた。 【実践 6年 体積】 先生と一緒に少しずつ考えていく「ぐんぐんコース」・自分で考えその考えをホワイトボードで説明する「のびのびコース」の2つを用意した。 「ぐんぐんコース」には、既習の面積の時にどう考えていたか図表で示したり、具体的な立体模型（マジックテープで離せる工夫）などを準備した。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">学習したことがわかりふりかえりができるノート指導</p> <p>昨年度ノート指導に取り組んだ6学年で学習内容の定着に進歩がみられたので、本年度から全学年で実施することとした。指導者は、板書に本時の課題を「左上上下赤囲み」で明らかにし、児童から出された解決方法は左から右へ整理する。（低学年は単元によっては、ワークシートを使うこともあった。） ノート指導の内容は、発達段階によって異なるが、月日・ページ・問題番号・1枠1数字1文字など基本的なことから始め、誤りは、赤で直すなどを重点的に指導している。その結果、1時間の授業の中に聞く・考える（操作）・発表・書く学習が位置づき、テンポよく展開できる集中した授業となった。</p>
--------	--

平成15年度

子どもの姿がみえる評価のあり方
 授業の中で、教師のねらう評価基準はできるだけ1つにしぼるように心掛けた。また、児童の自己評価のため、授業の最終場面に本時の理解度を確認する問題を用意した。
 「A（自分の力で解けた）」
 「B（少し助言で解けた）」
 「C（解けなかった）」
 などわかりやすい具体的な評価も実施してきた。

複数教員の指導におけるそれぞれの役割・分担
 これまでのチームティーチングTTの問題点

- ・ T2の働きかけが補充学習の児童中心ではなかったか。
- ・ T2が児童の学習支援よりT1の補助になっていなかったか。



本年度めざすTT

- ・ T1もT2も児童の一人ひとりへのきめ細やかな指導をめざす（教職間の主従でなく、T2も前面に立ちながら児童の集中力・つばやきなどを注視し、必要に応じてすばやく児童やT1へ対応する）
- ・ 全員もらさず練習問題に丸つけ、具体物の操作、まとめの板書、個別指導など1時間の中でT1T2の分担をはっきりさせる。
- ・ T1が授業を進行している時は、T2は学習の流れをさまたげない形で児童の支援を行う。

などの原則を決め取り組んできた。

指導形態(例)

型	課題	編成	重点指導	主な指導の流れ	主な役割・分担
学級一斉指導	A1 同一	一斉	I 全体	A1	T1全体指導T2個別指導
	A2 同一	一斉	II ノート	A1-A2-B1	T1全体指導T2個別指導
	A3 同一		III 操作(活動)	A1-A3-A2-B1	T1T2操作グループ指導
学級少人数指導	B1 同一	同数	IV 同質グループ	A1-B1	T1T2グループ指導
	B2 同一	異数	V 個人・コース	A1-B2-A2-B1	T1T2グループ指導
	B3 異	異数	VI 発展・補充	A1-B3	T1T2グループ指導

4年 単元 1より大きい分数(例)

指導時間	学習事項	指導形態	指導時間	学習事項	指導形態
1時	仮分数とは	III	7時	仮分数を帯分数に	III
2時	1より大きい数を数直線に	II	8時	まとめ	V
3時	真分数、仮分数の意味、大小	II	9時		
4時	練習	IV	10時		
5時	帯分数とは	III	11時		
6時	帯分数を仮分数に	II	12時		

平成
16
年度

テーマ 一人ひとりに確かな学力を育むわかる授業の創造
算数科における個に応じた指導を通して

研究の見通し

「あの方法なら できる」と意欲がわき、見通しをもって学習に取り組める発問・場・教材・教具などの工夫・改善・開発を行う。
一人ひとりが自分のとき方や考え方を説明できるよう、図・絵の有効な活用を図ったり、具体物を用いた操作・体験活動などを入れたりする。
学んだことがわかり、学習のふりかえりができる学年の発達段階や個に応じたノート指導をおこなう。

以上、3点を重点的に繰り返して指導を積み重ねていけば、一人ひとりが「わかる・のびる楽しさ」を味わいながら生き生きと取り組む活動が創造でき、確かな学力がついていくであろう。

研究内容・方法

学習意欲を喚起する学習課題の設定と確かな学力の定着を図る指導過程の研究

・意欲を喚起し、「つかむ 予想する ふかめる まとめる」の学習過程の中で、児童の意識にそった展開を行う。

課題解決の意欲が持続する発問・場・教材・教具の工夫と活用

・解決意欲を促す発問と解決の支援となる場・教材・教具を考える。

一人ひとりが自分のとき方や考え方を説明できる図・絵や体験並びに操作活動の工夫

・学年部で確かな学力定着のために「大切にしたいことば」を決め、表現する力を高める。

学年に応じたノート指導

・学年部ごとに学習内容がわかる・自主学習に利用できるノート指導の内容を吟味する。

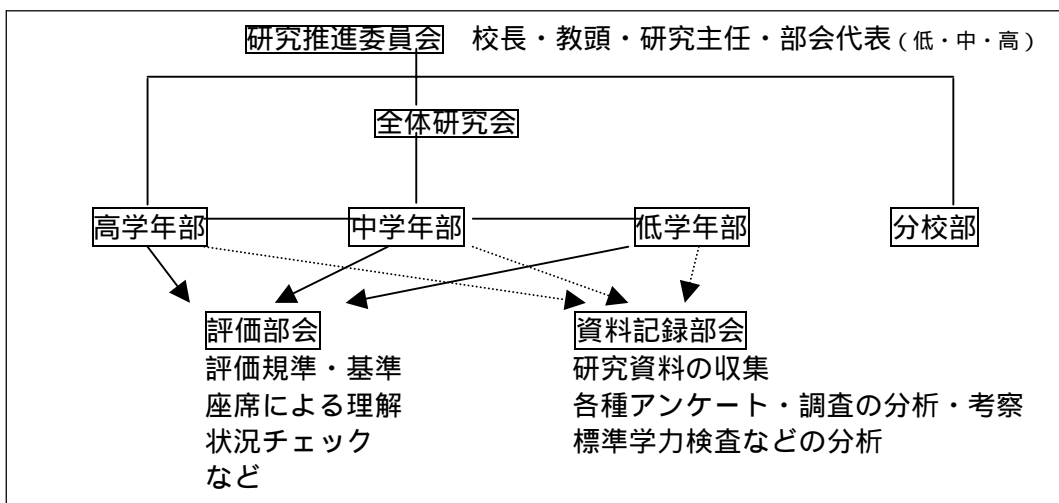
授業改善に生かす子どもの姿がみえる評価のあり方

複数教員による協力的指導における役割分担のパターン化と実践

・打ち合わせ時間短縮に向け、役割分担のパターン化と呼び名を決定する。

・これまでの指導計画と実践を見直し、協力的指導の向上をめざす。

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題
1. 研究成果

(1) 児童の変容について

本研究のめざす子ども像

わかる・できる楽しさを味わい喜んで(進んで)学習に取り組む子

アンケートの分析からの成果

平成12年度に実施した学習意欲調査記録では、4分の1以上の児童に学習意欲の低下がみられた。その原因の一つとして、計算・漢字など基礎基本がわからないまま学年が進級していることがあげられていた。

本年度、1学期7月では、複数教員による学習指導にまだ試行錯誤があり、個に対応した授業のすすめ方にどう対応したらよいかわからないと答えている児童もあり、成果が見えにくかった。しかし、2学期末では、児童にたいへん好意的に受け入れられていることがわかった。

複数教員による指導に対するアンケート

	よい	わからない・わるい
平成15年 7月	74%	26%
平成15年12月	99%	1%

理由として、「よくわかる・やさしく教えてくれる・ゲームなどでできて楽しい・丸付けが早い・自分たちのペースでできる・授業がスムーズに進む」などあげられていた。

担当している教師からも、「細かい指示をしなくても授業の流れがわかってきた・すぐ取りかかってまじめにノートを書く・楽しんで算数の学習に取り組んでいる」など意欲・関心・態度の改善が聞かれるようになった。

(2) 客観的なデータから

15年4月標準学力検査の結果は、全国とほぼ同レベルで1ポイント上回っていた。16年2月に標準学力検査を受けてさらに客観的なデータを比較分析する予定である。

本年度各学年とも単元ごとに標準的な資料やテストを活用しながら学習定着の確かめをしてきた。低学年は、正確なデータがとれなかったため、次の観点別からは除いている。

	1学期			2学期		
	考え方	表現・処理	知識・理解	考え方	表現・処理	知識・理解
3年	82	90	84	84	89	85
4年	76	71	78	75	74	80
5年	83	87	83	82	82	90
6年	76	84	89	82	88	85
平均	79.3	83.0	83.5	80.8	83.3	85.0

1学期に比べると、2学期の平均は、どの観点ともわずかではあるが伸びている。操作や体験を取り入れながら、わかる授業を複数教員の協力で取り組んできた成果と考える。考え方を伸ばすことは難しいとされているが、繰り返し指導と同様に、自力解決からみんなの考えを聞き合うことを大切にしたことにより、考えることにも少しずつ慣れてきているのではないかと思う。

2. 今後の課題

- (1) 弱い単元の強化
 - ・例えば、3年では、長さ・時間と時刻・大きな数の学習理解が弱いとわかってきた。現4年・5年も大きな数が弱いデータがある。仮説の1を充実させ、教材・教具開発等により、児童にとって「わかる」授業を作り出さねばならない。
- (2) 算数科における表現力の深化
 - ・「わたしは、～と思います。わけは、～だからです。」「わかりました。」「もう一度お願いします。」「違う意見があります。」など基本の発表方法にさらに慣れさせる。
 - ・ネームプレートで自分の考えの立場を明らかにして全員の授業参加を促す。
 - ・「たとえば、～と考えると・・・になります。」「～までわかりました。～ということですか。」など学年部ごとに「大切にしたいことば」を決め、基本話型の拡大・充実を図る。
- (3) ノート指導の充実
 - ・現在実施している学年部ごとのノート指導を再考し、より綿密な学力向上をめざしたノート指導のあり方を確認する。
- (4) 授業改善に生かす評価
 - ・自分で考え自分で解く場面での座席カルテの生かし方
 - ・目標に準拠した学習評価の充実
 - ・個人の成績集約の生かし方
- (5) 複数教員による指導のパターン化と実践
 - ・今年の基本形を見直し、パターンの名前を決め実践する。
- (6) 現在のスキル見直し
 - ・週2回朝20分間国語の漢字・算数の計算練習を実施している。計算力がついてきたか標準学力検査などで見直し、必要に応じて実施方法を検討・修正する。

学力等把握のための学校としての取組

- ・標準学力検査の実施・分析 (本年度4月と2月)
- ・確かな学力への児童アンケート実施と検討・改善 生活アンケート(年2回)
- ・指導の見直し複数指導に対する児童アンケートの実施と検討・改善(年2回)
- ・算数科への児童の希望アンケートの実施と検討・改善 (年1回)
- ・保護者への学校教育への要望・希望アンケートの実施と検討・改善(年2回)

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- | | |
|--------------|-----------------------|
| ・平成15年11月11日 | オープンスクールで地域に授業公開と意見集約 |
| ・平成15年12月1日 | 学校間連携推進地域連絡会で報告 |
| ・平成16年6月中旬 | 授業公開 (町内を中心に) |
| ・平成16年11月18日 | 研究発表会予定 (管内) |

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】	レ15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	6学級以下	レ7～12学級		
	13～18学級	19～24学級		
	25学級以上			
【指導体制】	レ少人数指導	レT・Tによる指導		
	一部教科担任制	その他		
【研究教科】	国語	社会	レ算数	理科
	生活	音楽	図画工作	家庭
	体育	その他		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		レ有	無	